

Central Daily Market Report

2019年4月25日(木)
セントラル短資株式会社 総合企画部

●資金需給

単位：億円	2019年4月25日		2019年4月26日		2019年5月7日	
	需給速報		需給予想		当社予想	
銀行券	▲ 6,800		▲ 4,700		5,000	
財政	11,800		▲ 3,400		▲ 23,000	
資金過不足	5,000		▲ 8,100		▲ 18,000	
金融調節	スタート	エンド	スタート	エンド	スタート	エンド
貸出						
全店共通			1,500	▲ 1,900		
国債買現						
国債売現						
国庫短期証買入						
国債買入	10,000					
CP等買入		▲ 200	1,500	▲ 600		
貸出支援基金(成)						
貸出支援基金(貸)						
被災地支援						
社債等買入		▲ 100		▲ 200		
E T F 買入						
国債補完供給	▲ 100	100		100		
当預増減	14,700		▲ 7,700		▲ 18,000	
当座預金残高	3,992,100		3,984,400		3,966,400	
準備預金残高	3,468,500					
積み終了先	3,467,500				4月26日以降の残り所要積立額	
超過準備	3,467,500				積数 9,700	
非準備預金先	523,600				1日平均 500	
積み期間(4/16~5/15)の所要準備額					3,064,400	
準備預金進捗率	実績 99.68%		日数 33.33%			

●2019年4月25日の市場動向

<インターバンク市場>

本日の無担ONは、地銀・信託・証券業態から▲0.086~▲0.03%での調達で始まった。昨日に引続き調達ニーズは限定的で、出会い巡後は閑散とした状況となった。ターム物に関しては、特段の成合いは見られなかった。金融政策決定会合ではフォワードガイダンスの変更が行われ、これまで「当分の間」続けるとしていた現在の長短金利を、「当分の間、少なくとも2020年春ごろまで」続けるとした。

<レポ市場>

GCT/N(4/26-5/7)は、▲0.200~▲0.095%程度での成合い。SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。10Y334~354、5Y130~139、30Y59~62などにビッドの出入りが目立った。

<短国市場>

現先レート(T/N)は、大型連休を挟んだ月末月初の取引となり乱高下した。アウトライト市場は、大型連休を控え動きなく閑散で、3M物が▲0.175~▲0.170%で成合った程度だった。

<CP市場>

現先レートS/Nは横ばい圏で推移した。発行市場は償還総額100億円程度に対して、発行総額は2,700億円程度と大きく発行超であった。発行市場は機械・石油業態において大型案件が見られ、月初発行の応当入札日としては活況なマーケットとなった。発行レートは概ね横ばいで推移した。

●短期金融市場関連指標

2019/4/25	無担(速報)			有担(速報)			短国 売買参考統計値	東京 レポレート 平均値	JGB新発10年債		日経平均株価		ドル/円	
	最低	最高	平均	最低	最高	平均			直近値	前日比	15時時点	前日比	為替(9時)	為替(17時)
O/N	▲ 0.150	0.001	▲ 0.075				-	▲ 0.155	▲ 0.035	0.006	22,307.58	107.58	112.12-13	111.83-84
T/N							-	▲ 0.151						
S/N							-	-						
1W							-	▲ 0.151						
2W	▲ 0.075	0.000	▲ 0.071				-	▲ 0.146						
3W			▲ 0.060				-	▲ 0.136						
1M							-	▲ 0.135						
3M							▲ 0.170	▲ 0.134						
6M							▲ 0.181	▲ 0.154						
1Y							▲ 0.170	▲ 0.158						
									日付	4/18	4/19	4/22	4/23	4/24
									日銀当預残	3,974,100	3,976,100	3,985,500	3,990,200	3,977,400
									準備預金残	3,462,600	3,459,100	3,463,800	3,470,100	3,463,200
									マネタリーベース	5,107,600	5,113,600	5,127,000	5,137,100	5,129,900
									無担O/N加重平均	▲0.069%	▲0.072%	▲0.076%	▲0.077%	▲0.075%
									コール市場残高	95,784	111,808	100,635	92,974	100,335
									うち無担	71,536	84,805	75,763	71,920	80,001
									うちO/N	40,676	49,945	41,323	36,980	35,191
									うち有担	24,248	27,003	24,872	21,054	20,334

●入札結果

本日は財務省による国債等の入札は実施されませんでした。

●オペ結果

種類	オファー額 (億円・ 百万ドル)	スタート日	エンド日	貸付 利率	応札総額 (億円・ 百万ドル)	落札総額 (億円・ 百万ドル)	按分レート ・利回較差 ・価格較差	全取レート ・利回較差 ・価格較差	平均落札レート ・利回較差 ・価格較差	按分 比率
共通担保資金供給(全店)〈固定金利方式〉	15,000	2019/4/26	2019/5/20		1,522	1,522				
国債補完供給(国債売現先)・即日(午前オファー分)	56,231	2019/4/25	2019/4/26		67	67		▲0.600	▲0.600	

●2019年4月26日の予定

*3月の完全失業率(市場予想: 2.4%) *3月の有効求人倍率(市場予想: 1.64倍) *米国1-3月期のGDP速報値
*3月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(市場予想: 前月比▲0.1%) *3月の商業動態統計速報
*4月の都区部消費者物価指数(CPI)(市場予想: 前年同月比(除く生鮮)+1.1%)

●日銀金融政策決定会合・結果

- 強力な金融緩和を粘り強く続けていく政策運営方針をより明確に示すため、以下のとおり決定。
 - 政策金利のフォワードガイダンスの明確化(金利が急速に上昇する場合には、迅速かつ適切に国債買入れを実施する。)

日本銀行は、海外経済の動向や消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、少なくとも2020年春頃まで、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持することを想定している。
 - 強力な金融緩和の継続に資する措置の実施
- 金融市場調節方針および資産買入れ方針については、以下のとおり決定。
 - 長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)(貸付2反対2)

短期金利: 日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。
長期金利: 10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動しうるものとし(金利が急速に上昇する場合には、迅速かつ適切に国債買入れを実施する)、買入れ額については、保有残高の増加額年間約80兆円をめどとしつつ、弾力的な買入れを実施する。
 - 資産買入れ方針(全員一致)(長期国債以外の資産の買入れについて)
 - ETFおよびJ-REITについて、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。その際、資産価格のプレミアムへの働きかけを適切に行う観点から、市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動しうるものとする。
 - CP等、社債等について、それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持する。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入